

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800694		
法人名	株式会社フレンド		
事業所名	グループホーム ふれんど		
所在地	栃木県 小山市羽川524-1	電話:	0285-20-6211
自己評価作成日	平成 24年 7月 17日	評価結果市町村受理日	平成 24年 8月 24日

※事業所の基本情報は

基本情報	
------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F		
訪問調査日	平成 24年 8月 1日	評価確定(合意)日	平成 24年 8月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 清潔感のあるホームであるよう心がけています。 * 季節感を感じていただくよう、庭先には季節の花を咲かせたり、畑では野菜を作り食卓に提供できるよう工夫したり、環境整備に取り組んでいます。 * 入居者・ご家族・スタッフの信頼関係を大切にしています。 * 入居者同士が仲良く励ましあい、尊重し合える関係になれるよう、はたらきかけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは小金井駅から徒歩で約15分の閑散とした住宅街にはあり、敷地内にデイ・サービスセンター、小規模多機能施設・当法人の薬局のほか病院がある。開設時「入居者が地域の中で自立した生活を続けられるよう支援する」を念頭に管理者・職員が話し合っグループホームの理念を創った。入居者の健康に最善の注意を払いながら外食や日帰りバス旅行など気晴らしの遠出や、暮らしの中で入居者の力に合わせて、役割を担ってもらうなど個人を尊重し入居者の自発性を引き出しながら安心して楽しい暮らしを支援している。中学校生に体験学習の場の提供をしたり、学校の運動会・文化祭などに招待されたり、双方向の交流もしている。また隣接している施設と連携して、家族や地域住民・ボランティアを招きフラダンス・納涼祭やバーベキュー・芋煮会では施設を開放して見学が出来、地域福祉に理解を求めている。更に防災に関しても地域と協力体制の強化に努めようとしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社社理念・ホームの理念・指針は、ご家族を含め来訪者のご理解をいただけるよう玄関に掲示し、ホームの理念・職員の心得については、毎朝の朝礼にてお互い・個々に確認しながら実践につなげています。	管理者職員は創設時に、入居者が「地域の中で楽しく、自立した生活し続ける事を支援する」を念頭に話し合い、理念を創った。創設以来の職員と新人職員は互いに理念に沿っているかを日々実践を振り返り、朝夕の引継ぎ時に確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域への貢献を常に思い、地域の方との関わりを大切にしながら、イベント案内や自治会行事への参加・ボランティアの方に協力をいただいています。また、併設する事業所と合同でのイベントを開催しています。	隣接するデイサービス・小規模多機能施設と合同で年間イベントを企画している。バーベキューや芋煮会などに地域住民を招待したり、施設見学や域内の中学校生に体験学習の場を提供するなど、常に地域との関わりを大切にしている。	隣接の事業所と共に地域の福祉施設として定着している。更に福祉、介護ノウハウを活かした地域貢献を図り、地域住民や老人会などへの理解や啓蒙に努め、運営推進会議メンバーの協力や助言も期待します。
3		○事業所を力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月開催している内部研修を介護者教室のような形で、事業所発信型の情報提供ができないか検討しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方に運営推進員として加わっていただき、共にホームの情報を発信しながらご意見等を伺いサービス向上につなげています。	入居者家族・地域代表・包括支援センターが出席し開催されている。事業所の活動状況・利用者の状況やイベントについて報告している。管理者は運営推進会議の重要性については理解し活用したいとしているが、メンバーのスケジュール調整に苦慮し、年間の開催回数に達していない。	前年度からの検討課題(目標達成計画)である定期的な(年6回)開催の実現、及び懸案事項などを継続的に取り上げ、1つ1つ解決を図りながら実績を積み上げることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から事業所の状況その他の報告を行い、疑問点については意見をいただきながら、利用者処遇に活かしています。	市の担当窓口とは常に連絡が取りあい、実状報告や取組みについて相談したり、認定更新の手続きなどで訪問している。また法改正の解釈やケアサービスの取組みなどについて確認やアドバイスなどを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の題材として全職員がその弊害をよく理解し、実際の利用者処遇に活かしているよう取り組んでいます。	職員は認知症研修で身体拘束の弊害について、正しく理解している。心身の機能低下が著しい入居者の転倒骨折を防ぐ為に、家族と相談して車椅子に移行したが、職員のチームワークと気配りでケアサービスに努めている。	車椅子利用(一人)で自室への出入りなどに安全面からの課題があるが、行動制限に繋がりがかねない障害物を除去するなど、さらに気配りをするのを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『虐待』については、自分自身の身になり『されたいやなこと』『して欲しくないこと』を各自が認識を持ち、話し合いお互いをお互いの目で注意できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、理解を深め活用に繋がるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族を含め十分な説明を行うことに留意し、ご理解を頂いたうえで契約締結を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表の方に出席していただき、意見や希望を話していただいて、その後の処遇に活かしています。	運営推進会議に家族代表が参加し質問や確認などが行われている。事業所のイベント時などにも家族が参加し、忌憚のない意見交換の場になっている。家族は入居者の小口清算に月1度訪問し入居者の健康や暮らし振りについて報告を受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催される定例会議において、各職員が意見や提案をする機会を必ず作っている。会議の司会も交代制とし、各職員が議題を提案する内容としている。	定例会議では各職員が発言する機会を作っている。現場サイドの意見を聴き入れ、工夫やアイデアをサービスに活かして職員の働く意欲に繋がっている。ボランティア・イベントの企画なども職員に運営が任せられ、職員同士の啓発の場にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期(6か月)毎に実施している人事考課の際に、職員とできるだけ対話する時間を作り、個別のモチベーションを把握するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格に応じた研修を『ふれんど』独自で設け、また、外部の研修も積極的に受講を勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の同一サービス事業所毎に主任会議を開催し、現場レベルでの情報交換ができるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を検討されている場合には、最初ホームの見学からお試しでの利用をお勧めし、その間本人の話をよく傾聴していくことに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学後、申し込みを頂く祭に、ご本人・ご家族からの状況・状態をしっかり伺い、今後どうなっていきたいか・どうしたいかなどを伺いながら、共に協力し合える体制を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の小規模多機能施設の、サービス利用についての柔軟性を活かして、段階的にグループホーム入居に移行するといった方法なども提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の1日の流れのなかで、利用者の方ができること(掃除・料理など)をよく検討し、利用者個人個人が存在意義を感じられることを目指して支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況をこまめに報告する形で連絡を密にしています。協力医以外への医療機関への受診を希望される場合は、基本的に家族に付き添っていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の関わりの中から本人のニーズを汲み取り、必要に応じて電話を取り次いだり、外出の機会を作ったりしています。	入居者の今までの暮らしを継続支援するために、家族や友人・知人への電話を取次いだりしている。誕生会やクリスマス会などにも家族の参加を促している。外出時には、思い出話を元に昔馴染みの路や商店街をめぐり、買い物など支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの長・短所の把握と理解に努め、問題が大きくなるよう、早めに介入しプライドを傷つけないよう努め、ご家族の協力を得ながらよい関係が築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この一年の間にも2人の入居者が他施設などへ移られましたが、今後退所後もさりげないお付き合いがどのような形でできるのか検討していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症という病気を改めてよく理解し、常に基本は肯定的な関わりができるよう、職員間で話し合っています。	「職員の心得」を実践しながら、入居者への声かけやスキンシップを心がけている。入居者の言動からその真意を汲み取り、暮らし方への思いや、意向の把握に努めている。一対一になる入浴時は入居者の本音が聴け、情報は家族と共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報をいただき、一番の思いの部分の把握・理解に努め、共に大切にできるよう心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週一回の主治医の往診を受け、常に状態を把握し、急変・異常を素早く気づき、主治医への報告・指示のもとご家族の安心を得られるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に来られた際には、日常生活の様子を細かく報告し、それに対する今後の希望や意見をj得て、職員会議のなかでケース会議を開いて介護計画作成に活かしています。	定期的な見直しの他に、職員は毎月のケース会議で入居者ごとの状況・情報・気づきを報告し、アイデアや意見を出し合い、反映させ現状に即した介護計画を作成している。ADL低下の結果、本人・家族と相談して車椅子に移行した入居者もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には、日々の生活の様子・排泄状況・食事水分摂取量・身体状況等を具体的に、会話等は作文形式に記録しています。業務日誌には、大まかに記録した事項を朝・夕の申し送り時に口頭で報告、情報共有の漏れのないように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設して調剤薬局を運営しているメリットを生かし、入居者の内服に関して、薬剤師から副作用などの情報をもらい処遇に活かしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節感を感じていただく目的で毎月外出レクを実施していますが、行き先には地域の昔馴染みの場所(公園、商店など)を希望により選定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に一人ひとりのかかりつけ医から必要に応じて、ご家族と相談をしながら協力医宛に紹介状を頂いたり、薬剤師や職員が直接かかりつけ医と連絡が取り合えるよう情報交換を密にしています。	かかりつけ医との馴染みの関係で継続受診を支援をしているが協力医への受診希望が多い。協力医の定期的な往診や予防検診は入居者・家族の安心な暮らしにつながっている。事業所はかかりつけ医や協力医との受診情報を家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所所属の看護師がいないので、併設のDSや居宅支援センターの看護師に薬剤情報や健康面についての相談・助言を必要に応じてもらえるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のごまめなお見舞いに伺いながら、ご家族との連絡や病院(主治医)との情報交換を密にしながら、本人・ご家族の意向を話し合いながら、退院に向けて調整・準備を進めるようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で終末期の対応について、家族とよく話し合い、事業所としてできる対応を説明しています。実際にこの一年の間に、家族・協力医と相談しながら医療機関へ移られるケースがありました。	契約時に重度化や終末期の対応について入居者・家族と話し合い事業所の「出来る事、出来ない事」について説明をしている。入居者の健康状態を見極めながら、入居者・家族の意思確認と医療機関・福祉介護関係・特養など連携しながら、事業所で出来る最大のケアについて支援し対応している。	入居者の状態の変化に合わせ、入居者・家族の希望・要望にも変化が想定されます。事前に医療関係者やケア関係者と対応方針を共有し、事業所の対応し得る最大のケアについて、状況に応じて説明し、入居者・家族の安心と納得に繋がる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成や内部研修を通して緊急時の対応方法について学び、消防訓練などにおいて実践力を養っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災グッズや非常食の備蓄などを始めました。有事の際には近隣住民の避難所にもなれないかなど検討しています。実際には3事業所合同の避難訓練を昨年度も実施しました。	消防署の立会いで、施設合同の火災避難訓練を実施した。消防署から「火災報知音が隣接の施設にも聞こえるように改善を」との指摘があった。震災の経験から災害時の食料品や避難グッズの備蓄も充実しつつある。更に9月は地震想定避難訓練、3月は火災避難訓練を計画している。	地震想定、夜間想定、入居者の避難先の安全確保などなど、想定される災害事項をまとめ、全職員が臨機応変な対応を身につけるまで、繰り返し訓練される事を期待します。また災害時は近隣や地域の協力が不可欠であり、運営推進会議の重要な継続課題として早急な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別のペースを尊重しながらの見守り・声かけを心掛けています。最近は特に夕食後にリビングでテレビ観賞される方が増えています。	入居者は1階の居間で新聞を読んだり、テレビを見たり、編み物・折り紙などして、思い思いに過ごしている。職員は入居者夫々の時空を大切にしながらプライバシーに気配りして言葉かけたり、誘導などしている。トイレや入浴介助でも尊厳を尊重し、羞恥心に配慮して入居者の意思を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の尊重はもちろんですが、上手に思いを表出できない利用者の思いをできるだけ汲み取れるよう、職員間で関わり方を検討しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に沿った形でなく、あくまで利用者の時間軸を優先に、臨機応変に対応するように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回、近所の理髪店の出張サービスを実施しており、希望される方も増えてきました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者によって一緒に食事の準備や後片付けに力をお借りしています。また、定期的に外食や出前など実施し、食べる楽しみに繋げられるよう取り組んでいます。	外部からカロリー計算された食材を取り入れ、職員が利用者の咀嚼力に合わせて調理し配膳している。職員は見守りながら、食材や調理の仕方などを話題にししながら、入居者夫々のペースで、食事の楽しみを支援している。入居者は毎月1回の外食を特に楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材宅配業者の栄養士と相談し、食べ易い食材の提供を依頼しております。献立には、カロリーの表示もあり、食事制限の方への調整等行っています。栄養状態は、主治医により1/3Mに採血を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアの他、食後の口腔ケアの実施の補助的支援・歯科科医の診断を受け必要に応じ早期治療につなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個別の排泄パターンを把握するよう努めています。日中には全員がトイレでの排泄をされています。	可能な限りトイレでの自立排泄を支援している。排泄チェック表を参考にしたり、習慣やパターンに応じて事前誘導し、失禁など失敗による不快感の軽減を支援している。トイレには入居者毎に備品が用意されており、自ら交換するなど自立している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食・水分・適度な運動等の声かけを行い、慢性的な便秘の方は主治医への相談と指示により予防と対策に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴を基本として、また本人の状況に合わせて入浴形態を相談しています。前日のうちに着替えなどの準備は本人にお任せしています。	入居者は洗濯物を自分でたたむなど、準備をしながら、入浴を楽しみにしている。温泉風にしつらえた浴槽は小規模施設にあり、利用者同士が馴染みで楽しみにもなっている。入居者のADLなど健康状態によって、時間やサイクルや入浴形態を変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	マイペースで生活していただくことを基本に、昼夜逆転のある方は、特に眠らない声かけ・レクへの参加・散歩・外気浴・散歩や、精神状態の安定が保てるよう傾聴を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	多種の薬を服用される方も多く、誤薬事後の防止策も踏まえワンドーズし、薬剤師にはこまめに情報提供しながら、個々に合った内服薬の管理し、服薬経過・確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設のデイサービスで実施している機能訓練に参加されたり、リビングで新聞を読んだり、手作業に没頭したりと、個別の嗜好や楽しみを自ら選んで過ごせるよう配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段から職員と一緒に近隣を散歩したりできるよう声かけしています。毎月恒例の外出には、利用者の希望の場所へ出かけています。	最近酷暑で日中の外出は控え気味である。入居者の健康や気力、希望に合わせて、散歩時間やコースを工夫・調整しながら支援している。家族同伴で、那珂川水遊園・筑波山など北関東周辺をバス旅行してきたが、入居者の高齢化とADLの低下に伴い車酔いなどあり関係者と再検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金の『大切さ』を理解されていて、ご家族からお預かりしているから、という安心感と『いつでも使える』という楽しみもっていただけるようにしています。ご家族には、領収書を元に『お小遣い帳』の作成し報告を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話・ご家族からの電話等の取次ぐことで本人の不安を取り除くことに繋がるので、積極的に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の大部分の時間はホール(居間)で過ごされる為、お互いの関係性に配慮した座席の配置に努めています。また、衛生面では消毒や消臭に気を付けています。	東向きのリビングは緑のカーテン越しに柔らかい採光と、心地良い室温に保たれ、季節を感じる作品や、当日のメニューの掲示がある。お昼時は調理の音や料理の匂いが入居者の暮らしの中の力になっている。トイレは広く閉塞感がない。エレベータは自由に操作でき、二階の広い廊下は天窓があり明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者の方々が気兼ねなく過ごせるように、職員が自然に上手く間に入るようなコミュニケーションを図っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れ親しんだ家具・小物をご持参いただき、少しでも安心して暮らせるようご家族にご協力いただいております。	各部屋は備えつけの整理箆笥があり、地震などで倒れる心配が軽減されている。孫の写真や入居者の大切な日用品が箆笥の上に飾られたり、ベッドの位置を廊下からの直視線を避られる位置などプライバシーに配慮し工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	職員間で利用者のADLをはじめとした状態の共有を常に図り、その利用者に応じて個別個別の支援ができるように心がけております。		